

2020年から2021年の防災

根本 昌宏

日本赤十字北海道看護大学

➤ コロナによる防災の停滞。

- 地域におけるお祭りなどのイベントが中止。地域防災訓練も中止。
- コロナ自体が「災害」の様相を呈し、自然災害の啓発が難しく。
- 人と人の顔の見える関係が、マスクにより拒まれる。

➤ コロナ下においても止めずに持続させたこと。

- コロナ事案や、北海道事案の冬（換気）対策も、検証型訓練を学校を借り切って実施された。
- 道内市町村では感染症型避難所を開設するために、簡易ベッドやパーティションの整備が行われた。
- 保管場所に難儀している段ボールベッドについて、道総研による検証が進行中。分散備蓄の実現は次世代型の防災。



2020年から2021年の防災 ～2022年に向けて

➤ コロナとともに進みつつあること。

- 住民参加型の訓練を徐々に戻しつつある。有珠山噴火訓練は住民が参加した。
- 2021年12月の厳冬期訓練（北斗市）。

➤ 地域性を重視した防災訓練、防災活動、防災教育を。

- 地域のお祭りなどが防災につながる。
- 子どもたちへの学び。SDGsは防災そのもの。

➤ アフターコロナは、元に戻るのではなく、新しい防災へ。

- 密な避難所を作ることなく、人の尊厳が守られる防災に。
- 在宅避難（分散避難）を安全に実現するための啓発を。
- 津波型防災について、実践型の対策を。

